

東奥日報

2020年(令和2年)3月19日(木曜日)(14)

人に優しい中心街を

八工大生 市長へ活性化策提案

八戸

八戸工業大学の学生が八戸市中心街の街づくりに関する報告書を取りまとめ16日、同市庁で小林眞市長に説明した。八日町の再開発構想や、三日町・十三日町の活性化などについて、大胆で具体的な提案が相次いだ。

同大学と市、第3セクターまちづくり八戸が締結した覚書に基づき、学生が2016年度から中心街の課題に対する解決策の検討を行っている。本年度は土木

建築工学科土木コースの3年生35人が昨年から、テーマ別に5班に分かれて調査・研究してきた。

八日町を取り上げた班は、同地区の課題に木造の古い建物が多く、道路が狭い点を挙げて、再開発による道路拡張と、ドーム型アーケードの設置を提案。三日町・十三日町を調査した班は、横断歩道の勾配が急で歩道と店舗の段差が大きいとした上で、スロープを設置するなどして車いすやベビーカーを使っている人に優しい対策を取るべきと

した。さらに独自の試算で概算工事費を6500万円とした。

小林市長は提案一つ一つ

を講評し「中心街の現状を分析して素晴らしい提案をいただいた。参考にさせていただきます」と述べた。



街づくりの提案内容を説明する八戸工業大学生

長横町の活性化について発表した立花郁巳さんは「八戸を若者からお年寄りまで楽しめる街にしたい。提案が実現すればうれしいし、これからも街づくりに貢献していきたい」と語った。

(月舘慎司)